

第2回登米圏域会議

【日時】令和6年1月10日（水）13時30分から15時30分まで

【場所】県登米合同庁舎5階 501会議室

【委員からの主な意見】

第5期みやぎ観光戦略プランの実施状況・今後の目指すべき姿

- ① 受入環境の整備促進の観点からすると、登米圏域は交通網やインフラが、非常に脆弱であり、改善が必要。
- ② 登米圏域への交通手段は、自家用車利用が最も多い印象で、二次交通が充実していないのが実状。駅から観光地までの鉄道利用者の移動手段が、これまでも課題として残っており、観光に関する仕組づくりを考える上でもネック。
- ③ 登米圏域は、宿泊施設が少なく、地域に連泊するような企画がとりづらい。民泊の受入れ先の拡充や増えている空き家を簡易宿所に活用するといった取組が必要。簡易宿所を開設するための手続を簡素化できれば、空き家の活用を含め、宿泊先を拡充に繋がる。
- ④ インバウンドは、外国人団体が大勢で来て「爆買い」といったイメージがあるが、飲食のみで、土産物の売上げ増に繋がらないといった事例も聞く。過度な期待を持つべきではない。
- ⑤ 登米市民一人ひとりが、どれだけ登米を観光地と意識しているか、どれだけ登米市を観光地と捉えているか疑問。本格的に登米市を観光地として、盛り上げていくためには、市民の観光地意識を高めるようなプロジェクトも必要。
- ⑥ 住民自身が地域を魅力的と思わなければ、広がらない。地域住民、子供たちに登米圏域の魅力を理解してもらえる教育といった取組の充実が必要。
- ⑦ グリーンツーリズムは、農業体験が主であるが、季節によって体験が可能な時期とそうでない時期がある。市内の観光や農業以外の体験の充実などの横の連携が課題。
- ⑧ 登米市単独での観光地化は、ありえない。観光地は、観光地なりの特徴といったものを持っており、あえて「行ってみたい」、「体験してみたい」ということが前提。近隣市町の協力のもと、登米市に立ち寄ってもらう方向での政策が必要。
- ⑨ 観光地づくりは、一番身近なところから始めても良いのではないか。

今後の観光振興施策と財源確保の方向性

- ⑩ 宿泊税の免税点、素泊まり料金で一人一泊3,000円未満は、民泊であるかもしれないが、ホテル等では、ほぼないと感じる。もう少し引き上げてもよいのではないか。
- ⑪ 宿泊税が、観光資源として設備投資等に活用されるのは、良いことだが、物価高の影響下で、宿泊税の税率300円はどうか。

宮城県観光連盟のDMO化について

- ⑫ DMOは、様々な場面で話題となるが、設立自体を目的といった事例もあると聞く。是非とも県内の各地域が活性化するような取組に期待。
- ⑬ 様々な県で、DMOなどが取り組んでいるのが現状。宮城県でも、DMOが活発に取り組んでいくことに期待。